

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：24102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10156

研究課題名（和文）「痛み」の表出に関する基礎研究

研究課題名（英文）Fundamental studies on the expression of pain

研究代表者

小池 敦 (Koike, Atsushi)

三重県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：10321316

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：「痛み」の感じ方には個人差のあることが知られている。本研究の結果から「痛み」を他者に伝えるための言語表現の用いられ方にも個人差のあることが示唆された。本研究ではパーソナリティ特性が「痛み」の言語表現の用いられ方と関係しているか検討した。その結果、外向性と開放性、調和性などの特性では既存の言語表現が当てはまらないと判断する場面が多いことが示された。また、誠実性については「痛み」の程度の違いが用いる言語表現に関係している可能性が示された。なお、神経症傾向は「痛み」の言語表現の用いられ方と関係していなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者が訴える「痛み」は主観的な感覚であるため、他者が理解するには一定の困難を伴う。これまで患者自身が「痛み」をどのように受け止めているか、「痛み」の性質や程度について客観的に捉える試みがなされてきた。本研究では、「痛み」を感じる場面での「痛み」を表す言語表現の用いられ方に着目し、性格特性によって「痛み」の言語表現の用いられ方に違いがある可能性を示した。患者が訴える「痛み」の体験について、どのような言葉が用いられるかを示唆する基礎資料となるもので、「痛み」を訴える患者の理解を促すものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：It is generally known that individual differences may occur in the ways that people feel and otherwise perceive pain. The results of this study suggest that there are also individual differences in the choices of verbal expressions that pain sufferers use to communicate their experiences of pain to others. This study examined whether personality traits are related to the choices of verbal expressions for pain. The results showed that such traits as “extraversion,” “openness,” and “agreeableness” often led study participants to determine that existing verbal expressions did not apply. With regard to “conscientiousness,” however, results of the study suggested that differences in the degree of pain may be related to the verbal expressions used to describe it. “Neuroticism” did not appear to be related to the choices of verbal expressions for pain.

研究分野：心理学

キーワード：痛み コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

医療現場において、患者の「痛み」は解決すべき重要な課題の1つと位置づけられる。「痛み」感覚については、その発生機序、感覚伝達の神経機構、鎮痛の薬理作用などが明らかになっている一方で、「痛み」が主観的な感覚であるために感じ方には個人差が大きく、また「痛み」の訴えは患者の言語、非言語による表出に基づくほかないため、他者が患者の「痛み」を的確に理解することには困難を伴う。

これまで「痛み」の感覚を理解するためのアプローチとして各種のペインスケールの開発をはじめ、慢性疼痛患者の「痛み」の感受性にみられる個人差について性格傾向との関連性などが検討されてきた(長谷川他, 1997)。最近では「痛み」の表現の用いられ方そのものに焦点を当てた研究がなされている。「痛み」の感覚が身体と密接に結びついていることから、痛みの身体感覚的特徴と認知的評価の対応関係に関する研究(楠見他, 2010)や「痛み」の表現として用いられることが多いオノマトペに着目した研究(ファイザー株式会社, 2013, 土斐崎他, 2014)などが散見される。一方で、ペインスケールなどで用いられている言語表現が、性格傾向あるいはパーソナリティ特性とどのような関係にあるかについては明らかになっていない。

2. 研究の目的

「痛み」を表す言語表現に関して、パーソナリティ特性による違いがみられるか、生活に及ぼす痛みの程度に違いをもたせた場面を設定し、パーソナリティ特性に応じて「痛み」を表す言語表現の用いられ方に違いがあるか明らかにする。

3. 研究の方法

1) 調査協力者：大学あるいは専門学校の学生 41 名を対象とした(平均年齢 \pm SD : 21.4 \pm 6.60 歳)。

2) 調査項目：さまざまな痛みの程度を示す場面を設定した上で、その際に感じる痛みを表す表現の用い方の程度を問う質問紙を作成した。痛みの程度を示す場面については段階的に強度を増すものとして、普段通り日常生活を営める程度の全く気にならない痛み(場面 A)、普段通り日常生活を営めるが、気になる程度の痛み(場面 B)、日常生活にある程度支障はあるが、我慢して普通に生活できる痛み(場面 C)、日常生活にある程度支障はあるが、自ら何らかの手当(シップを張る、鎮痛剤を飲むなど)をして、日常生活を維持する程度の痛み(場面 D)、日常生活に支障があり、休養するなど日常生活を中断する程度の痛み(場面 E)、日常生活に支障があり、病院を受診する程度の痛み(場面 F)、日常生活について考えられず、痛みのことしか考えられないようになる痛み(場面 G)、痛みから解放されるのであれば、患部を切り取ってしまいたいと思うような痛み(場面 H)、痛みから解放されるのであれば、死を選んだ方がよいとまで思うような痛み(場面 I)の 9 場面を設定した。

それぞれの場面に対して、痛みの性質を表す言語表現として、マクギル簡易式痛み質問紙の中で使われている表現(Melzack, 1987)を参考に、ずきずきする痛み(throbbing)、撃たれたような痛み(shooting)、刃物で刺されるような痛み(stabbing)、鋭い痛み(sharp)、締めつけられるような痛み(cramping)、体力を消耗するじりじりした痛み(gnawing)、焼かれるような痛み(hot-burning)、うずくような痛み(aching)、激しい痛み(heavy)、圧痛(tender)、裂かれるような痛み(splitting)、疲労痛(tiring-exhausting)、気持ちのわるい痛み(sickening)、恐ろしい痛み(fearful)、残酷な痛み(punishing-cruel)の 15 の痛みの表現を用いた。

15 種類の痛みの表現それぞれに関して、「全く当てはまらない：1」～「よく当てはまる：5」までの 5 件法での評価を求めた。なお中間には「普通：3」を置いた。

パーソナリティの測定に関しては、日本語版 NEO-PIR、YG 性格検査を用いた。併せて、エゴグラムを用いた。

3) 手続き：予備的調査として試験的な実施であったために、調査協力者に研究の目的、方法、倫理的な配慮について説明しながら配布した。1 週間程度の期間を設けて回収した。調査協力者には性格検査の結果について個別に説明し、研究への協力についても再度確認し了承を得た。

4. 研究成果

1) 痛みの程度の異なる 9 つの場面で痛みの性質を表す 15 の表現がどの程度当てはまるかを評定した結果を表に示す。痛みの程度を示す場面によって用いられる痛みの表現には違いがみられるが、全体として痛みの表現として最も当てはまるものの回答が多かった順に、「ずきずきする痛み(throbbing) : 2.98 \pm 0.90」「激しい痛み(heavy) : 2.89 \pm 0.76」「鋭い痛み(sharp) : 2.88 \pm 0.73」であったのに対して、「疲労痛(tiring-exhausting) : 2.44 \pm 0.84」「圧痛(tender) : 2.46 \pm 0.75」「気持ちのわるい痛み(sickening) : 2.46 \pm 0.85」が当てはまらないとの回答であ

表 痛みの異なる程度の場面と用いられる痛み表現の関係

		throbbing	shooting	stabbing	sharp	cramping	gnawing	hot-burning	aching	heavy	tender	splitting	tiring-exhausting	sickening	fearful	punishing-cruel
場面A	平均	2.37	1.12	1.15	1.56	1.88	1.80	1.24	1.56	1.24	1.73	1.17	2.22	1.85	1.27	1.15
	SD	1.48	0.33	0.42	0.87	1.05	1.08	0.58	0.95	0.73	1.18	0.44	1.42	1.11	0.55	0.53
場面B	平均	2.66	1.32	1.29	1.93	2.39	2.44	1.34	2.22	1.68	1.95	1.39	2.49	2.10	1.37	1.27
	SD	1.39	0.72	0.64	1.25	1.51	1.29	0.62	1.33	1.13	1.16	0.63	1.40	1.14	0.66	0.59
場面C	平均	3.41	1.51	1.46	2.27	2.56	2.95	1.71	2.37	2.02	2.46	1.63	2.98	2.32	1.46	1.41
	SD	1.47	0.81	0.74	1.23	1.48	1.36	0.87	1.16	1.19	1.34	0.94	1.54	1.27	0.74	0.77
場面D	平均	3.93	1.71	1.71	2.78	2.88	2.80	1.83	2.39	2.41	2.73	1.83	3.15	2.63	1.68	1.51
	SD	1.27	0.98	1.01	1.19	1.89	1.42	1.09	1.24	1.24	1.43	1.05	1.44	1.46	0.93	0.81
場面E	平均	3.12	3.17	3.20	3.41	3.07	2.95	2.95	3.17	3.80	2.56	3.17	2.44	2.61	3.07	2.95
	SD	1.44	1.53	1.55	1.22	1.35	1.41	1.53	1.28	1.27	1.25	1.39	1.23	1.32	1.57	1.70
場面F	平均	3.02	3.63	3.61	3.61	3.34	2.98	3.41	3.41	3.71	2.68	3.63	2.34	2.95	3.24	3.27
	SD	1.35	1.44	1.50	1.24	1.26	1.35	1.43	1.18	1.12	1.21	1.32	1.22	1.28	1.50	1.55
場面G	平均	2.95	3.88	3.85	3.66	3.49	3.15	3.71	3.37	3.93	2.78	3.83	2.37	2.88	3.59	3.63
	SD	1.48	1.35	1.44	1.39	1.42	1.46	1.40	1.36	1.29	1.33	1.34	1.39	1.44	1.52	1.62
場面H	平均	3.02	4.10	4.12	3.59	2.98	2.93	3.90	3.24	3.85	2.83	4.17	2.05	2.63	3.85	3.95
	SD	1.65	1.24	1.31	1.48	1.52	1.59	1.36	1.48	1.31	1.48	1.26	1.40	1.59	1.41	1.50
場面I	平均	2.32	3.80	3.71	3.15	2.76	2.73	3.49	2.85	3.32	2.37	3.85	1.90	2.15	3.59	3.95
	SD	1.66	1.38	1.42	1.53	1.59	1.63	1.45	1.51	1.44	1.39	1.42	1.34	1.44	1.61	1.58
計	平均	2.98	2.69	2.68	2.88	2.82	2.75	2.62	2.73	2.89	2.46	2.74	2.44	2.46	2.57	2.57
	SD	0.90	0.70	0.74	0.73	0.84	0.88	0.70	0.77	0.76	0.75	0.71	0.84	0.85	0.84	0.84

った。「圧痛 (tender)」を除くと、痛みの感覚的な表現が上位を占めていた。

2) 痛みの程度が異なる9つの場面で痛みの性質を表す15の表現がどの程度当てはまるかを評定した結果とパーソナリティ特性との関係について検討した。

日本語版 NEO-PIR の5つの特性 (神経症傾向、外向性、開放性、調和性、誠実性) と9場面それぞれでの15の痛みの表現の関係について相関を求めたところ (n=25) 神経症傾向に関してはいずれの場面においても15の表現と有意な相関は見られなかった。外向性は、2つの痛みの性質を表す表現 (「疲労痛 (tiring-exhausting)」(場面 B: $r=-0.529, p<0.005$) 「体力を消耗するじりじりした痛み (gnawing)」(場面 E: $r=-0.423, p<0.05$)) といずれも有意な負の相関がみられた。開放性は6つの痛みの性質を表す表現 (「撃たれたような痛み (shooting)」(場面 B・C・D: $r=-0.405 \sim -0.518, p<0.05$) 「刃物で刺されるような痛み (stabbing)」(場面 B・C・D: $r=-0.437 \sim -0.547, p<0.05$) 「焼かれるような痛み (hot-burning)」(場面 B: $r=-0.553, p<0.005$) 「裂かれるような痛み (splitting)」(場面 B・C・D: $r=-0.460 \sim -0.528, p<0.05$) 「恐ろしい痛み (fearful)」(場面 C・D: $r=-0.487 \sim -0.556, p<0.005$) 「残酷な痛み (punishing-cruel)」(場面 C・D: $r=-0.478 \sim -0.485, p<0.05$)) といずれも有意な負の相関がみられた。調和性は、2つの痛みの性質を表す表現 (「撃たれたような痛み (shooting)」(場面 C: $r=-0.400, p<0.05$) 「裂かれるような痛み (hot-burning)」(場面 I: $r=0.423, p<0.05$)) で有意な負の相関と正の相関があった。また、誠実性は5つの痛みの性質を表す表現 (「締めつけられるような痛み (cramping)」(場面 I: $r=0.432, p<0.05$) 「うずくような痛み (aching)」(場面 A: $r=-0.436, p<0.05$ 、場面 I: $r=0.505, p<0.05$) 「激しい痛み (heavy)」(場面 I: $r=0.418, p<0.05$) 「圧痛 (tender)」(場面 A: $r=-0.470, p<0.05$) 「疲労痛 (tiring-exhausting)」(場面 A: $r=-0.439, p<0.05$) 「残酷な痛み (punishing-cruel)」(場面 F: $r=-0.425, p<0.05$)) とそれぞれ有意な相関がみられた。

このことから、パーソナリティ特性の中で神経症傾向に関しては、痛みの性質を表す15の表現の用いられ方と関係していない可能性が示唆された。外向性と開放性、調和性については、それぞれの特性が高いと痛みの言語表現が当てはまらないと判断するケースが多いことが示された。また、誠実性については痛みの程度が軽い場面では痛みの言語表現が当てはまらないと判断する一方で、痛みの程度が強い場面では痛みの性質を表す表現が当てはまるとみなす傾向が示された。

YG 性格検査の12の特性と痛みの程度として設定した9つの場面で痛みの性質を表す15の表現がどの程度当てはまるかの評価について相関を求めたところ (n=15) 設定場面ごとに特性と痛みの性質を表す言語表現の間で有意な相関の見られる組み合わせがあった。場面に関わらず15の言語表現と12の特性間の相関については、回帰性傾向 (C) と「体力を消耗するじりじりした痛み (gnawing)」($r=0.630, p<0.05$) および「圧痛 (tender)」($r=0.606, p<0.05$)、劣等感 (I) と「撃たれたような痛み (shooting)」($r=-0.553, p<0.05$)、神経質 (N) と「体力を消耗するじりじりした痛み (gnawing)」($r=0.574, p<0.05$)、協調性 (Co) と「体力を消耗するじりじりした痛み (gnawing)」($r=0.589, p<0.05$) の組み合わせがそれぞれ有意な相関を示した。なお、YG 性格検査から得られる類型との関係については、得られた類型のばらつきが大きく一定の傾向の示唆を得るには至らなかった。

エゴグラムに関しては (n=10) 15の言語表現と5つの自我状態との間の分析からはいずれも有意な相関は認められなかった。

3) 人の痛みへの理解は、痛みの程度と性質を通して行われることが主流といえるが、本研究の結果からは、パーソナリティの要因も痛みの表出に關与する可能性が示唆された。患者の痛みの訴えに対しては、多次元のペインスケールのみならず、パーソナリティ要因などを含む全人的な理解が望ましいと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------